

岐臨技会報



54

2017年10月20日 発行

<Gifu>Association of Medical Technologists



平成29年度
日臨技中部圏支部

医学検査学会

第56回

未来を担う医療人として

~As medical professionals responsible for the future~

愛知からの変革 チーム医療、先駆的医療への取組み

《開催日》

平成29年

9月30日(土)

10月 1日(日)

《会 場》

名古屋国際会議場

(白鳥ホール・2号館)





視察を終えて

大垣市民病院 浅野 敦

去る平成 29 年 9 月 30 日（土）、10 月 1 日（日）の両日、平成 29 年度日臨技中部圏支部医学検査学会（第 56 回）が、『未来を担う医療人として』をメインテーマに名古屋国際会議場で開催されました。

ご存じのように、この日臨技中部圏支部学会は中部 6 県の持ち回りで担当することになっています。2 年後の平成 31 年度は岐阜県が担当になることから、9 月下旬に立ち上げた学会実行委員の先生方と視察を踏まえ本学会に参加してきました。一般参加者、視察者の両観点から、皆様に学会のご報告をさせていただきます。

開催日は両日とも爽やかな秋晴れに恵まれました。学会参加者は 1 日目で 1,000 人を超え、最終的な参加者は 1,454 人、一般演題も 152 題にのぼり大盛況な学会でした。

名古屋国際会議場は、学会開催にはお馴染みの施設です。日臨技企画や特別・公開講演などが執り行われた学会のメイン会場は、1,300 人を収容する十分な広さを持ち他にも様々な人数に対応可能な部屋があります。施設自体が大きく各会場の行き来に難は感じませんが、参加受付は例外なく、朝は混雑するものだと受け止めました。

今回の学会、先のメインテーマにサブテーマとして～愛知からの変革 チーム医療、先駆的医療への取り組み～を加え、“パラダイムシフト”がキーワードになっていたようです。シンポジウムや部門別企画など各会場を回りましたが、このパラダイムシフトという言葉が本当によく飛び交っており、学会長を軸とする愛知県の統制力を感じました。また、宮島会長の講演では、先の国会で医療法・臨検法の一部改正が可決されたことをうけ、「我々はゴールに達したのではなく、今からがスタートである」と主張していたことが印象的でした。

1 日目の夜は恒例の意見交換会です。近年、意見交換会のテーマは『派手!!』なのか？と感じるくらいの勢いみたいなものを感じます。今回は、長篠陣太鼓やマジックショー、日本酒飲み比べコーナーなどの演出で会場を賑わせていましたが、全体的には談笑による 2 時間という感が強く、それほど派手さは無かったように思われます。当県が担当する時は、他県・他施設との交流を後押しできるような演出ができればと考えます。

2 日目には、日臨技企画として養成校学生フォーラムが組み込まれていました。学生参加型の企画で、前回の石川県開催から始まったと記憶しています。学生が、臨床検査技師の職種をどのようにイメージしているのか把握できるという点では、今後学生を迎える側としては大きな参考材料となります。今回で言えば、“職場の雰囲気”“仕事内容の充実”“産休・育休”“勤務時間の規則性”“学術活動”“再就職”“昇進”“プライベートの充実”などアンケート結果をもとに討論されていました。世代により受け止め方は変わるのでしょうが、臨床検査技師の本質が脇役になってしまっているのかなと個人的には少々残念に思う部分もありました。この企画も今後継続していくようです。学会参加時にはぜひ会場に足を運んでください。

今回の学会でもシンポジスト・座長・発表に多くの岐阜県技師が活躍されました。岐阜県から学術奨励賞の受賞者が出ることを期待しましょう。

最後に、平成 31 年 10 月 12 日（土）、13 日（日）に、岐阜県が担当で第 58 回日臨技中部圏支部医学検査学会を開催予定です。実務委員、発表、座長、学会参加等さまざまな形で皆様のご協力・ご支援を仰ぎたいと考えています。その際には、どうぞよろしくお願いいたします。

シンポジウムでの発表を終えて

岐阜医療科学大学 高崎昭彦

平成 29 年度第 56 回日臨技中部圏支部学会シンポジウムにおいて「未来を担う医療人として」というテーマで発表させていただいた。本学会のメインテーマである「医療のパラダイムシフト」について学生はじめ養成校としてどのように対応しているのかというところを中心に話をした。IT 化、AI 導入により正確で迅速な診断・治療が可能になり、また臨床検査分野においても格段な変化が起きてくるであろう。IT 化と AI 導入を積極的に受け入れつつ、さらなる医療の高度化を目指し、臨床検査技師にしかできない検査を新たに模索・研究する必要も出てくるであろう。我々養成校教員としては“未来の臨床検査”を担うべき学生に“夢”を持たせることが必要であると考え。といっても“通説を覆す劇的変化(パラダイムシフト)”とは逆行する“既存の教科書”を中心とした国家試験対策も必須である。この点は宮島会長の講演でもあったように「教育を変えていかねば次世代に繋がらない」という点と共通している。また養成校教員も現場を離れて仕事をしているため、教科書には強いが、最新技術は...といった状態である。今回のシンポジウムを通じて、現場とのギャップを感じ、我々も学生に伝えるべく最新技術をもっともっと臨床現場から学ばなくてはならないと感じた。総合討論の場では、臨床現場と養成校とのコミュニケーションはしっかり取れているのか?といった質問もあった。今後は未来の臨床検査をよりよいものにしていくために、次世代に対応できる学生を輩出できるよう、教員も臨床現場と密にコミュニケーションをとりつつ努力していきたいと思う。質問も多数あり有意義な討論となった。



シンポジウム		
演者	岐阜医療科学大学	高崎 昭彦
新しく臨床検査技師を目指す学生とともに未来を考える ー臨床検査技師養成校教員		
部門別研究班企画		
司会(血液)	岐北厚生病院	渡辺 宜典
演者(血液)	大垣市民病院	杉山 直久
多項目血球分析装置の導入効果とピットフォール ～使いこなせてますか？あなたの分析装置～		
演者(病理)	岐阜県総合医療センター	近藤 倫久
病理検体採取段階からの標準化		
演者(生理)	大垣市民病院	石郷 景子
認知症と睡眠の関係～認知症の予防のひとつの方法～		
演者(生化)	岐阜大学病院	石田 秀和
施設間互換性の確保された精度管理の実践		
演者(微生物)	岐阜大学病院	中山 麻美
微生物部門内における教育		
演者(輸血)	松波病院	森本 剛史
院内輸血教育を実施して		
病棟業務検査技師企画		
演者	岐阜中央病院	森 さゆり
血液浄化センターでの検査説明、相談の取り組み		

一般演題		
微生物		
座長	岐阜県総合医療センター	後藤 雪乃
血液		
座長	岐北厚生病院	渡辺 宜典
演者	岐阜市民病院	石丸 亜希子
経過観察中に付加的染色体t(9;22)(q 34;q 11,2)を認めた一症例		
臨床化学		
座長	岐阜大学病院	石田 秀和
演者	岐阜県総合医療センター	渡邊 庸歌
当院における共用基準範囲導入について		
演者	大垣市民病院	鈴木 音緒
可用性IL-2受容体測定ラテックス試薬の基礎的検討		
病理		
座長	東海中央病院	日高 祐二
生理		
座長	大垣市民病院	中島 直美
演者	岐阜県総合医療センター	大塚 真子
心臓超音波検査にて観察しえた心膜囊胞の一例		
一般		
座長	岐阜県総合医療センター	建部 雅彦
演者	岐阜大学病院	稲垣 勇夫
糸球体由来のAcanthocyte(穴あきこぶ状赤血球)の形態に関する検討		
情報システム		
演者	大垣市民病院	清水 繁行
当院における搬送システム更新による効果について		



県内の健康イベント

高山市市民健康祭りを終えて

久美愛厚生病院

中切 健太

平成 29 年 10 月 1 日（日）に高山市役所・高山市保健センターにおいて第 28 回高山市市民健康祭りが行われました。飛騨地区会員 14 名の方が協力し、岐阜県臨床検査技師会として参加しました。



高山市市民健康祭りスタッフの皆さん

今年のブースは、骨密度測定と物忘れ相談プログラムとし、測定から結果説明までを行うことが出来ました。両方の検査で 261 名の方がブースを訪れ、検査そのものや結果に興味を持って頂いていると感じました。また、大変多くの方が健康祭りに来られていて、健康に関する興味を強く持たれていると感じました。

骨密度測定は、例年行っていることもあり、多くの方を検査することが出来ました。物忘れ検査は、今年が初めてだったこともあり、参加者も躊躇しているようなところもありました。認知証に関する検査の 1 つとしてもっと知れ渡ると、より参加者の方も増えると感じました。来年度も健康祭りに来られた方に、興味を持って貰えるよう企画し、検査技師の仕事や活動について知って頂けるよう努力したいです。



大垣市市民の健康広場を終えて

(株)メディック

青山 奈月

垣市市民の大健康広場が 10 月 15 日(日)に大垣城ホールにて開催されました。岐阜県臨床検査技師会としてもブースを設置し、「加速度脈波計による血管年齢測定」や「骨密度測定」を行い、検査結果をもとに説明を行いました。また、動脈硬化や成人病などのリーフレットの配布も行いました。あいにくの雨でしたが多くの方が参加され、本ブースにもたくさんの方に訪れていただけました。ご高齢の方に特に関心をもって検査を受けていただきましたが、ちいさいお子様も「これどうやるのー?」と検査測定の体験のような感覚で臨床検査にふれられる方も多くみられた印象でした。

普段は検査センターで働いているため、地域の方とふれあえるとても貴重な機会となり、大変有意義な一日でした。





当院は昭和 12 年に名古屋陸軍病院下呂臨時転地療養所として開設されたのを前身に、名古屋国立病院下呂分院を経て昭和 28 年岐阜県立下呂温泉病院となりました。平成 22 年に地方独立行政法人化され、平成 26 年には下呂駅近くの旧病院から現住所（下呂市森）に病室全室個室の病院として新築移転されました。診療科目 26 科、病床 206 床の他、総合健診センターを設置しています。検査部は現在 12 名で健診部門、病理・細菌検査を含む検体検査、生理検査、中央採血に対応しています。少人数ゆえ 1 人で複数の部門をこなしながら担当業務に取り組んでいますが、旧県立 3 病院の中でも独立行政法人化以降に採用された若手職員の割合が多いこともあり、将来のスペシャリストを目指し、研修会への参加、認定技師取得を目標としている技師も多くいます。今後もさまざまな研修会におじゃますると思いますが、よろしくお願いいたします。下呂温泉は日本三名泉の一つ、近くへお越しの際はぜひお立ち寄りください。

藤木 誠





秋冷の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。学会、研修会等で大忙しかと存じます。

お体充分ご自愛され、ご活躍されることを祈念しております。

さて先日、大垣市で技師会懇親会が開催されました。そのご報告を。

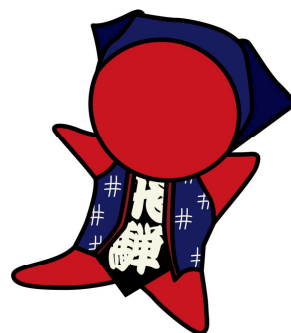
10月7日(土)に大垣駅前の居酒屋いろはにほへとに於いて第2回施設間意見交流会を行いました。兼子会長を含め6名(紅一点)の参加者で、今後の岐臨技の在り方や各施設の未来像から雑多な話まで和気あいあいとした雰囲気で大いに盛り上がりました。

一部の人たちは、2次会も参加し楽しいひと時を過ごし明日からの職場での糧となりました。

今回は残念ながら少人数の参加でしたが、第3回の企画もあるようですので、是非ぜひ奮ってご参加ください。

多治見市民病院 棚村 一彦

**次回は
IN 飛驒!!**



次回は「技臨技意見交換会(in 飛驒)」が予定されております。

日時：平成29年11月11日(土)18:00～ (秋季拡大研修会前日)

場所：高山駅前 日本海庄や 0577-35-3491

会費：¥4000 円 (飲み放題)

参加：出欠は11月5日までに岐臨技事務所までFAXで。

岐臨技 FAXはこちらまで
☎ 058-213-0220



H31年中部圏医学検査学会（岐阜）

テーマ大募集!!

再来年 2019 年に岐阜県にて中部圏医学検査学会が開催されます！

今年度内にテーマの候補を挙げたいと考えております。

みなさん、奮ってご応募願います。

お名前、連絡先もお忘れなく、FAXにて岐臨技事務所まで。

お知らせ

岐臨技 FAXはこちらまで
☎ 058-213-0220



バンドやろうぜ！ メンバー募集！



各医療機関への慰問、コンサート開催、中部圏学会懇親会での演奏に向けて
「岐臨技バンド」の準備中！

技師会としての社会貢献として、

また各施設の“横”のつながりができることも期待しています。

お名前、連絡先、希望楽器、好きな音楽ジャンルを明記の上、

岐臨技事務所までFAXでお知らせください。

発行所（一社）岐阜県臨床検査技師会

発行責任者 兼子 徹

〒500-8384 岐阜市藪田南3 丁目5 番地 10 コスタ岐阜県庁前 603 号

TEL 058-275-5596 FAX 058-213-0220

編集者

高崎 昭彦

松浦 康博

種村 久子

E-mail

giringi-office@giringi.jp